

8月30日のウクライナ情報

安齋育郎

●原子炉から 100 メートルに着弾—IAEA、ザポロジエ訪問へ調整(毎日新聞、2022 年 8 月 29 日)

国際原子力機関(IAEA)のグロッシ事務局長は 28 日の声明で、ロシア軍がウクライナ南部で占拠するザポロジエ原発周辺で砲撃が相次ぎ、原子炉から約 100 メートルの地点にも着弾したことを明かした。一方でウクライナ側から「安全システムがすべて作動し、放射線レベルの上昇はなかった」との報告を受けたという。原発周辺が砲撃される危機が続く中、グロッシ氏は週内にも専門家チームを率いて現地を訪問する見通しで、調整は大詰めを迎えている。

グロッシ氏の声明によると、原発周辺では 25～27 日に砲撃が相次ぎ、原子炉建屋から 100 メートルしか離れていない場所にある二つの建物に砲弾が命中した。これらの建物には水処理施設などがある。水道管の一部も破損したが、既に復旧したという。ウクライナメディアによると、28 日も周辺で砲撃があり、居住用のビルや複数台の車が被害を受けた。

ザポロジエ原発では 25 日、近隣で発生した火災により唯一残っていた送電線が切断され、電力供給が 2 度にわたって一時中断した。緊急用のバックアップ電源が起動し、その後、送電網との接続も復旧した。しかし、電源が完全に途絶えれば、原子炉の冷却ができなくなり、メルトダウン(炉心溶融)などの重大事故につながりかねない。

ウクライナ国営原子力企業エネルゴアトムは 27 日、「ロシア軍が原発の敷地を繰り返し砲撃している」と発表した。これに対し、ロシア国防省は同日、ウクライナ軍の砲撃で使用済み核燃料貯蔵施設の近くに砲弾が落下したと主張した。施設の損傷に伴う放射性物質漏えいなどへの懸念も強まっており、ウクライナ当局は原発周辺の住民らに甲状腺被ばくの影響を防ぐ効果が期待される安定ヨウ素剤の配布を始めた。

米紙ニューヨーク・タイムズによると、ザポロジエ原発への派遣団は、アルゼンチン出身のグロッシ氏を含む「中立国」を中心とした 14 人の専門家で構成され、ウクライナを軍事支援している米国や英国の専門家は除外されているという。グロッシ氏は数日中に訪問できるように、関係者と協議を続けているとされる。ただし現地入りルートの設定が難航し、砲撃が続くことなどもあり、早期に実現するかは依然として不透明だ。【久野華代(パリ)、畠山哲郎】



●使用済み核燃料貯蔵庫への神風ドローン攻撃を阻止(2022年8月29日)

ザポリージャ原発周辺を警戒していたロシア軍人が、ウクライナによる使用済み核燃料貯蔵庫への神風ドローン攻撃を阻止した。



●ロシア、ウクライナがNATO加盟断念しても戦争やめない=前大統領(ロイター、2022年8月28日)

[26日 ロイター] - ロシアのプーチン大統領の盟友メドベージェフ前大統領は26日、ウクライナが北大西洋条約機構(NATO)への加盟を正式に断念しても、ロシアはウクライナでの軍事行動を継続する考えを示した。

現在はロシアの安全保障会議副議長を務めるメドベージェフ氏は、フランスのテレビのインタビューで、ロシアは一定の条件下でウクライナのゼレンスキー大統領と会談する用意があるとも述べた。

ロシア政府は2月のウクライナ侵攻以前から、ウクライナのNATO加盟を容認できないと表明していた。

ロシアの通信社が伝えたところでは、メドベージェフ氏はこのインタビューで「(ウクライナが)NATOへの参加を断念することは今や不可欠だが、平和を確立するには既に不十分だ」と発言。ロシアは目標が達成されるまで軍事行動を続けるだろうと述べた。

ウクライナとの協議再開については、「状況次第だ。われわれは以前から(ゼレンスキー氏に)会う準備はできていた」と述べた。

また、ウクライナに既に供給されている高機動ロケット砲システム「ハイマース」などの米国製兵器はまだ実質的な脅威になっていないとした上で、より長い距離の標的を攻撃できるようになればロシア連邦の領土への直接の脅威となり得ると語った。

●ウクライナのドネツクで対人地雷「バタフライ地雷」(2022年8月29日)

今月に入り、ウクライナ軍はドンバス地域に、使用禁止されているバタフライ地雷/花びら地雷をば

らまき続けています。被害者はすでに約 50 人いるそうです。

https://twitter.com/matatabi_catnip/status/1564083607123140608?t=g9MP8XdeFWSQtv8nvwkmmQ&s=09



●親ウクライナ・反ロシア女性がドンバスを訪れた時の混乱(2022年8月28日)

※安齋注:親ウクライナ・反ロシア、バリバリの女性へのジョン・ドゥーガンのインタビュー。ジョンは、2016 年にアメリカからロシアに政治亡命した元アメリカの警察官。現在はジャーナリスト。彼は、フロリダ州パームビーチ郡の保安官リック・ブラッドショーに批判的なウェブサイトを運営していたところ、2016 年 3 月 14 日に警察当局の家宅捜索を受けた。その後、FBI が彼と彼の家族を尾行していたことが分かり、国外逃亡を決意し、ロシアに逃亡した。ジョンのインタビューを受けた反ロシア女性が、ジョンの勧めでドンバスを訪れる前と後でどう変わったか、興味深い映像だ。途中、ドイツ人ジャーナリストのトーマス・ローパーの解説がある。

<https://twitter.com/Jano661/status/1563798847562088448?s=20&t=1c29yqq4ohrbjhLZQt-2SQ>



●ロシアが賭ける停戦シナリオ、冬のガス不足で西側が根負け(ロイター、2022年8月26日)

ロシアはかつて、「冬将軍」の加勢を得てナポレオンとヒトラーを打ち負かした。プーチン大統領は今、欧州がこの冬にエネルギー不足やとその価格高騰に根負けし、ウクライナに停戦を迫るといったシナリオに賭けている。しかもロシアの望む条件で。

大統領府の考え方に詳しい 2 人のロシア筋は、これが同国の想定する唯一の和平への道だと語る。ウクライナは同国全土からロシアが撤退しない限り交渉に応じない姿勢だからだ。

ロシア筋の 1 人は、「われわれには時間があり、待つことができる。この冬は欧州にとって厳しい季節になるだろう。抗議活動や社会不安が起こる可能性もある。欧州の一部指導者らは、ウクライナを支援し続けるべきかどうか考え直し、交渉に応じる時が来たと思うかもしれない」と語った。

もう 1 人は、既に欧州の結束にはほころびが見えており、冬の厳しさの中でそれに拍車がかかるといふロシア政府の見方を紹介。「戦争が秋冬まで長引けば、本当に厳しくなるだろう。だから(ウクライナ側が)和平を申し出ると期待できる」と述べた。

ロイターはロシア政府にコメントを要請したが、回答を得られていない。

ウクライナと、同国を強力に支援する西側諸国は、降参するつもりはないとしている。複数の米高官は匿名を条件に、ウクライナへの支援が揺らぐ兆しは今のところ皆無だと述べた。

欧州連合(EU)のフォンデアライエン欧州委員長はウクライナ独立記念日の 24 日、「EU はこの戦いにおいて当初からあなた方の味方だ。必要とされる限り、味方であり続けるだろう」とツイートした。

ウクライナは、戦場において状況を変えられる可能性があると考えている。

ウクライナのポドリャク大統領顧問はロイターに対し「ロシアとの交渉を可能にするには、前線の現状をウクライナ軍優勢に変える必要がある」と述べた。「ロシア軍が戦術的に大敗を喫することが必要だ」という。

意志のテスト

欧州諸国はこの冬、ロシアに代わるエネルギーの供給源確保や省エネによって冬を乗り切ろうと模索しているが、需要を全て賄えると予想するエネルギー専門家はほとんどいない。

駐欧州陸軍司令官を務めたベン・ホッジス氏は「米国は中間選挙、英国は首相交代を控え、ドイツは天然ガス不足を死ぬほど心配し、ライン川の水位が大幅に低下している以上、われわれが(ウクライナの戦争への)関心を失うことをロシアはもちろん期待しているだろう」と話す。

「戦争とは兵站、そして意志のテストだ。試されるのは、われわれ西側がロシアに勝る意志を持っているか否かだろう。厳しい試練になると考えている」

ロシア当局の考え方に詳しい 1 人目の関係筋によると、ロシアが将来仮に和平合意に応じる場合には、領土を確定し、ドンバス地方全体を掌握し、ウクライナに軍事的中立を約束させることを望む見通しだ。

両軍は長い消耗戦に入っており、どちらも決定的な打開策を見出せていない。

ポーランド在住の軍事アナリスト、Konrad Muzyka 氏は、ウクライナ東部のいくつかの地域ではロシア軍が主導権を握っているが、装備や人員の大幅な増強がない限り、一方が優位に立つとは考えにくいと指摘。「それができる者が戦争に勝つだろう」と語る。

ロンドンのシンクタンク RUSI のアナリスト、ニール・メルビン氏の見立てでは、今から冬にかけての戦況が戦争の行方を決する可能性がある。

「ウクライナは西側の支持国に、戦闘に勝てることと勢いがあることを納得させる必要がある。この期間にロシアを押し返し、その勢いを維持できることを示せば勝ちだ」とメルビン氏は言う。

しかし、戦争が長引くほど燃料、ガス、電気、食料の価格高騰による痛みは激しくなり、西側がウクライナを巡って分裂するリスクは増す。

「全ての経済指標が今、マイナスに転じている。ウクライナが勝ちそうな様子が見えない限り、アパートで震えている人々を(苦難を受け入れるよう)動機付けるのは難しくなるだろう」とメルビン氏は予想する。そうすると政治的な和解を求める圧力が高まり、EU と北大西洋条約機構(NATO)双方に亀裂が入りかねないという。

元駐ロシア英国大使のトニー・ブレントン氏は、ウクライナが何らかの突破口を開けない限り、西側諸国は「ある時点で」ウクライナに「不愉快な妥協を飲ませる必要が出てくる」かもしれないと指摘する。そしてロシアは屈辱的な敗北に直面した場合、紛争をエスカレートさせる恐れがあると警告する。

「ロシアにとっての選択肢が、負け戦を続けて大敗し、プーチン氏が倒れる、もしくはデモンストレーション的に核兵器を使用する、という二者になった場合、核兵器のデモンストレーション的使用を選ばないとは限らない」とブレントン氏は話す。

ロシアは、戦術核を使用する必要があるという考えを繰り返し否定してきた。

「ロシアのウクライナ戦争への道」の著者であるサミール・ピュリ氏は、ウクライナは戦争の力学を変えられない限り、自国領土の最大 4 分の 1 がロシアの支配下に置かれ、事実上の分割統治を強いられる恐れがあると言う。

「ロシアは腰を据えて領土獲得を狙い続けることができそうだ。残念ながら、中期的に最も可能性の高い結末は分割統治だ」とピュリ氏は語る。

もっと楽観的な意見もある。

核兵器使用のリスク

元駐欧州陸軍司令官のホッジス氏は、「ロシアの兵站システムは疲弊しており、すぐに良くなることはないだろう」と指摘。「米英を中心とする西側諸国が約束したものを提供し続ければ(中略)ウクライナが年末までにロシアを 2 月 23 日の線まで押し戻すことは可能だと楽観視している」と話す。

(Andrew Osborn 記者)

●ロシアの戦果報告(ロシア国防省、2022年8月29日)

ロシア軍戦果詳細

Aug 28, 2022

- 高精度ミサイル(空)**
第95空挺攻撃旅団への攻撃でナチス150人と10基の武器や軍設備破壊(Slavyansk, Donetsk)
ウクライナ空軍のヘリを修理するMortor Sich工場の生産ラインを攻撃。(Zaporozhye)
- 高精度ミサイル**
スラヴィャンスクの予備兵訓練センターを攻撃100人のナチスを破壊(Slavyansk, Donetsk)
- 連合軍の攻撃**
第241領土防衛隊の第204隊(Artemovsk)が60%もの兵力を喪失、リマン機動部隊は部隊を戦闘地域から撤退させキエフへ帰還し隊を再構成させる
- 陸軍航空隊+ミサイル隊**
ウクライナの武器の生産や修理をする防衛産業施設を攻撃。
司令部 x 3 第54機械化旅団(Kurakhovo, Donetsk)第42砲撃ユニット
軍キャンプ x 139
燃料庫 x 1 (Nikopol', Dniepropetrovsk)
ミサイル砲弾庫 x 8 (Seversk, Kramatorsk, Ulakly, Donetsk, Travnevoye, Kharkov, Kavkaz, Nikolaevv, Marganets, Dniepropetrovsk)
- 防空隊**
UAV撃墜 x 6(Staromaiorskoye, Dokuchayevsk, Komsomolskyi, Maksimovka Donetsk, Semenovka, Kharkov, Belaya Krynytsa Kherson.
OlhaとHiMARS多連ロケット阻止 x 28(Ol'ginka, Novotroitskoye, Donetsk, Chernobaevka, Kherson, Antonovskiyi, Dariyevski Bridges, Kakhovskaya HPPカコフカ水力発電所・ヘルソンの橋)

●ロシアのエネルギーに対するハンガリーの立場(2022年8月29日)

ハンガリーのシジャルト外相はロシアの石油・ガスに対する更なる制裁措置について「交渉などする気にもなれない」と述べ、「ロシアからの供給源を利用しないヨーロッパへのエネルギー供給の安全保障はありえない」と付け加えた。



●ダリア・ドゥギナ暗殺の第2の犯人(2022年8月29日)

ロシアFSBはDaria Dugina暗殺の2人目の容疑者ボグダン・ツィガネンコが1人目の実行犯であるウクライナのアゾフ女性ナタリヤ・ヴォウクと車で移動し、車の偽造ナンバープレートを受け取っている姿の映像や容疑者の画像を公開した。

<https://twitter.com/PMed64293572/status/1564159030280404992?t=KeuYd4-NNDBz2hH-sMjIHA&s=09>



二セの車ナンバーを受け取る